



伝統のじよんから継承



稲刈りを表現
 押野じよんからは、昭和20年代後半まで押野地区で盛んに踊られていました。一度は途絶えてしまいましたが、2005（平成17）年に地元の人たちが約50年ぶりに復活させ、保存会を立ち上げました。踊りの特徴といえば、稲刈りの様子を表現した動きです。押野地区は昭和40年代ごろは田んぼが多い場所でした。校歌の歌詞には「みどりの野へに 目をさまし」とあり、青々とした水田が広がる風景が想像できます。児童は押野じよんからを踊ることで、自分たちのまちの歴史にも触れています。

金沢市押野小では、毎年3、4年生が地域に伝わる踊り「押野じよんから」を地元住民に習っています。伝統文化を受け継ぐこと、10年ほど前から始めた取り組みです。踊りは春の運動会で披露するんだよ。児童は家族や住民らの前で堂々と踊れるよう、楽しく練習に励んでいます。

踊ってまちの歴史に触れ

みんなで思を合わせて踊りを披露できるよう練習しています。

先月30日には、保存会の6人に手足の動かし方や手拍子を打つタイミングを教わりました。会員は「稲を縛ってばさばさ掛ける動作です。風が吹いたり、雨が降ったり。お日さまが差して稲が大きくなりますようにと願う動きです」などとポイントやこつを説明しながら、丁寧に動きを伝えてくれます。松岡彩葉さん（4年）は「保存会の人たちが指先をピンとつけてきれいだったと話し、より美しく見せるためのレベルアップを誓いました。」

織田彩葉さん（4年）は「3年生に教えてあげられたのでよかった」と練習を振り返り、笑顔を見せました。今年の運動会は21日。本番までは上級生が下級生にアドバイスしながら練習を繰り返す、みんなで大躍進を目指します。竹内悠くん（3年）は「少しずつ覚えてきて、運動会でも頑張れる気がします」と力を込めました。

児童は踊りを通して、地域住民とともにふるさとへの理解と愛着を深めています。

保存会がこつ指導
 区は昭和40年代ごろは田んぼが多い場所でした。校歌の歌詞には「みどりの野へに 目をさまし」とあり、青々とした水田が広がる風景が想像できます。児童は押野じよんからを踊ることで、自分たちのまちの歴史にも触れています。



保存会のメンバーに押野じよんからを教えてもらいました。

データファイル

創立 1873（明治6）年
 校訓 よく考える子、よく働く子、礼儀正しい子
 児童数 539人
 住所 金沢市八日市1丁目176



島津健一校長から

児童は、地元の人たちとコミュニケーションを取りながら、踊りだけでなくふるさととの伝統を大切にすることも教わっています。先輩から直接学べるということは、最高の伝承になります。児童には、地域とともに歩んでいこうという気持ちを育ててほしいです。